

エステ

広告編集

窯業

受刑者「再生の道」多様

社会情勢合わせ 訓練科目を増設

栃木、喜連川の刑務所

エステや広告編集、調理師など刑務所の職業訓練が多様化している。栃木刑務所（栃木市惣社町）は一月、エステティシャンを養成する総合美容技術科を全国で初めて開設。官民協働で運営する喜連川社会復帰促進センター（さくら市喜連川）は広告編集に加え、四月からコールセンター科、産業界などを設ける。社会のニーズの高い職業訓練を行うことで出所後の就労を安定させ、再犯防止につなげる考えだ。（加藤寛）



栃木刑務所では1月から、受刑者がエステティクの技術を学んでいる。—栃木市惣社町

「おんがい（あい）、口横、鼻横、もう一回戻ります」。女性受刑者が髪を収容する栃木刑務所（福地美恵子所長、受刑者約八百二十人）の職業訓練。今月十五日に行われた総合美容技術科の訓練には、淡いピンク色の作業服を着た六人の受刑者が参加していた。国際エステティック事協同組合が派遣した講師が、顔型の人形を使って「顔いを出さ」というつぼの押し方を説明すると、受刑者は熱心にメモを取っていた。

2008年（平成20年）1月21日（月曜日）

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686
下野新聞社
電話 028-625-1111
郵便番号 00350-0-407
OT 028-625-1134

読者室 028-625-1179
（受付・午前10時～午後6時）
編集局 028-625-1121
販売局 028-625-1120
広告局 028-625-1133
事業局 028-625-1134

http://www.shimotsuke.co.jp/
「下野新聞Plus」パスワード
itne15

下野新聞購読お申し込みは
電話 0120-810081

栃木刑務所はこれまで、美容師の資格が取得できる美容科など四科目があったが、雇用、就労機会が多いとの見方から

エステを導入した。三月までは試行期間で、受刑者六人が美容師の「フェイシャル」、足裏をマッサージして血行をよくしたりストレッチを和らげたりする「リフレクソロジー」を学んでいる。

喜連川社会復帰促進センター（菅井誠一センター長、現在の受刑者約六百人は官民協働運営という特色を生かし、さまざまな職業訓練を計画中だ。昨年十二月に開設した「リフレッシュ科（アスタック）」「女性のおしゃれの職業」（福地所長）とあって、試行に当たっては希望者が殺到、約十五倍の狭き門になった。半年間（三百五十六時間）の訓練を経て試験に合格すれば、同組合の認定証が与えられる。

今夏までに初犯の男性受刑者二百三人を収容する喜連川社会復帰促進センター（菅井誠一センター長、現在の受刑者約六百人は官民協働運営という特色を生かし、さまざまな職業訓練を計画中だ。昨年十二月に開設した「リフレッシュ科（アスタック）」「女性のおしゃれの職業」（福地所長）とあって、試行に当たっては希望者が殺到、約十五倍の狭き門になった。半年間（三百五十六時間）の訓練を経て試験に合格すれば、同組合の認定証が与えられる。

四月からは十一科目を追加。全国的に珍しいという調理師科は最新の調理システムがあり、民間とのパイプの太さを生かして指導者を充実させて42施設で情報料理科や建

「おんがい（あい）、口横、鼻横、もう一回戻ります」。女性受刑者が髪を収容する栃木刑務所（福地美恵子所長、受刑者約八百二十人）の職業訓練。今月十五日に行われた総合美容技術科の訓練には、淡いピンク色の作業服を着た六人の受刑者が参加していた。国際エステティック事協同組合が派遣した講師が、顔型の人形を使って「顔いを出さ」というつぼの押し方を説明すると、受刑者は熱心にメモを取っていた。

刑務所の職業訓練 受刑者の社会復帰後の円滑な就労を支援するのが目的。法務省矯正局による。2007年度は国内刑務所が申請し、同省が認可すれば実現する。

同センターの高崎建設部購買官は「社会情勢の変化に伴い、求められる人材も変わってきている。再犯防止は仕事に就くことが一番の近道。そのため支援体制をきちっと整えていきたい」と話している。

薬料、フォークリフト運転科など28科目が行われている。かつては落接や電気工事などが多かったが、最近では情報処理などのサービス分野が増えている。新科目の開設は各刑務所が申請し、同省が認可すれば実現する。

能にやる。酒販などの電器の受け付け業務を学ぶコールセンター科やビジネススマナー科も設ける。知的、精神障害がある受刑者を対象にした職業訓練は福祉の基本的知識を習得させるほか、創作活動を通じて身体機能の回復や情緒の安定を目指すという。

同センターの高崎建設部購買官は「社会情勢の変化に伴い、求められる人材も変わってきている。再犯防止は仕事に就くことが一番の近道。そのため支援体制をきちっと整えていきたい」と話している。

同センターの高崎建設部購買官は「社会情勢の変化に伴い、求められる人材も変わってきている。再犯防止は仕事に就くことが一番の近道。そのため支援体制をきちっと整えていきたい」と話している。

同センターの高崎建設部購買官は「社会情勢の変化に伴い、求められる人材も変わってきている。再犯防止は仕事に就くことが一番の近道。そのため支援体制をきちっと整えていきたい」と話している。